



平成27年度活動報告集

平成28年4月

ご 挨拶

東海構造研究グループ(Study Group of Structures in Tokai、略称 SGST)は、土木鋼構造物に携わる東海地方の大学、企業、官公庁などの技術者・研究者の交流の場として、昭和 53 年に創設されて以降、活発な活動を続けております。会の主な目的は、研究会などの種々の活動を通じて、産官学の立場を異にする会員間の情報共有・相互理解と親睦を深めることにあります。

活動の大きな柱の一つは、隔月に開催する定期研究会です。アンケート結果などを基に、多くの会員が興味を抱くと考えられる最新テーマについて、講師を招いて勉強会を実施しています。また、年に 1 度、現場見学会を実施しています。本年度の定期研究会においては、以下のような講演・見学会を行いました。

第 1 回：橋梁用高性能鋼材 SBHS 鋼のための繰り返し材料構成則の構築と
鋼製橋脚への適用性の検討

名古屋工業大学 大学院 都市社会工学科 助教 海老澤健正氏

第 2 回：構造物モニタリングの現状と進展

(株)TTES 代表取締役 菅沼久忠氏

第 3 回：インドネシアの橋梁事情とプロジェクト紹介

(株)横河ブリッジホールディングス 高森博之氏

第 4 回：送電用構造物の変遷、現況およびメンテナンスについて

日本鉄塔工業(株) 技術部 研究開発グループ 課長 本田誠氏

第 5 回：腐食損傷した鋼トラス橋格点部および圧縮斜材の残存耐荷性能評価

首都大学東京 都市環境科学研究科 都市基盤環境学域 教授 野上邦栄氏

第 6 回：見学会

・大阪工業大学 八幡工学実験場

・橋梁補修現場

工事名：平成 27 年度 小島野洲線 補助道路橋梁修繕工事（橋梁名：野洲川橋）

発注者：滋賀県

施工業者：建装工業(株)、ヤマダインフラテクノス(株)

定期研究会などは継続教育制度(CPDS)プログラムとして申請・認定され、会員の土木技術者としての資質向上の証明に役立てられています。

定期研究会とは別の活動として、平成 27 年度には 3 年ぶりに研究委員会を立ち上げました。研究委員会は、会員の中から有志を募り、ある特定のテーマについて調査研究を行うためのものです。今回、創設した研究委員会は、(1) AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会、(2) 最新技術・情報調査研究委員会、の 2 つであり、それぞれ判治剛氏（名古屋大学准教授）、木下幸治氏（岐阜大学准教授）に研究委員会委員長をお願いしております。ともに活発に活動していただいているところであり、よい成果を期待したいと思っております。

最後になりますが、SGSTの活動にご理解、ご協力をいただいているすべての皆様に感謝申し上げます。また、今年度の活動に際しご尽力をいただきました幹事の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成27年度SGST代表
名古屋大学大学院教授
館石 和雄

東海構造研究グループ

Study Group of Structures in Tokai

2016年3月

東海構造研究グループとは

東海構造研究グループ（略称 S G S T）は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関する諸団体（官公署、企業）および構造に関する業務あるいは研究に携わる個人とから構成されています。

このグループによる研究会は昭和53年に創設され、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。これまでに種々の研究結果を挙げており、また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしています。

沿革

- 昭和53年 4月 東海鋼構造研究グループ創設。代表 福本 嘔士
主として鋼構造部材の抵抗強度の信頼性評価が研究されました。
- 昭和59年 8月 東海構造研究グループと改称し、構造全般を扱うようにし、官公庁、企業、教育機関から多くの新規の会員入会がありました。
- 昭和61年11月 代表 長谷部 宣男
- 平成 元年 4月 組織規約が作成され、活動範囲を広げました。
- 平成 3年 4月 代表 宇佐美 勉
- 平成 7年 4月 代表 梶川 康男
- 平成 9年 4月 代表 山田 健太郎
- 平成13年 4月 代表 塩見 弘幸
- 平成15年 4月 代表 事口 寿男
- 平成17年 4月 代表 青木 徹彦
- 平成19年 4月 代表 久保 全弘
- 平成21年 4月 代表 後藤 芳顯
- 平成23年 4月 代表 近藤 明雅
- 平成25年 4月 代表 伊藤 義人
- 平成27年 4月 代表 館石 和雄

平成28年度 東海構造研究グループ代表および事務局

- 代表 館石 和雄 〒464-8603 名古屋市千種区不老町
名古屋大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻教授
TEL 052-789-4620 FAX 052-789-1674
E-Mail tateishi@civil.nagoya-u.ac.jp
- 事務局 松村 寿男 〒475-0826 愛知県半田市神明町1-1
(幹事長) 瀧上工業(株) 技術開発グループ
TEL 0569-89-2103 FAX 0569-89-2603
E-Mail t.matsumura@takigami-grp.jp
- 櫻井 勇太 〒475-0826 愛知県半田市神明町1-1
(事務担当) 瀧上工業(株) 技術開発グループ
TEL 0569-89-2103 FAX 0569-89-2603
E-Mail y-sakurai@takigami-grp.jp

■会の運営

会の運営は主として会員の納める会費があげられています。会費は会員の区分に応じて次のように決められています。

正会員	年額	2,000円
賛助会員	年額	1,000円
特別会員		
第1種	年額	30,000円
第2種	免除	
名誉会員	免除	

特別会員の第1種と第2種については、研究会などへの行事参加への区別は全くありません。特別な事情により会費納入が無理な団体に対して、第2種は設けられていますが、現在はできるだけ第1種へ入会していただくようお願いしています。

■東海構造研究グループの活動

研究調査

研究会活動の中心となるもので、構造に関する種々の分野について、研究および調査を行います。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。また、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討論が行われています。

現場見学会

会員全体が参加する行事として、不定期に開催されています。

構造物研究および指導の委託

構造物に関する研究の委託および指導を受け入れています。委託の内容によっては委員会を作り、検討を行っています。

出版

本会の成果として、「鋼構造部材の抵抗強度の評価と信頼設計への適用」(1980) および「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」(1994)を「橋梁と基礎」にそれぞれ2回に分けて発表しています。また、研究会での資料をまとめて「活動報告集」を毎年発刊しています。

講演会、講習会

構造に関する講演会および講習会の主催、共催または協賛を行っています。

協賛例：平成2年度 土木学会中部支部技術講座「構造物の設計にかかわる最近の話題」

平成4年度 土木学会中部支部技術講座「構造物設計における最近の話題

－景観設計とライフライン構造物の設計および管理－

平成6年度 土木学会中部支部技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」

平成7年度 土木学会中部支部技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計

－橋梁構造物－

共催例：平成17年度 橋梁技術発表会 「－橋梁技術の最前線－」

主催：(社)日本橋梁建設協会

平成18年度 構造工学フロンティア

主催：「構造工学フロンティア」実行委員会 (名古屋大学)

平成24年度 橋の最新耐震技術と維持管理のための新しい環境解析技術

主催：名古屋工業大学

組織と運営

■会員

東海構造研究グループは、以下に示す会員によって構成されています。会員には正会員、賛助会員、特別会員および名誉会員の4種があります。

会員区分	資 格
正 会 員	本会の各種事業の主体となって活動する次の各号に該当する者 (1) 構造物に関する業務に従事する者 (2) 構造物に関する学職経験者 (3) 前号に準ずる者
賛助会員	正会員の研究活動に参加しまたは支援する正会員の経験者およびこれに準ずる者
特別会員	本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する会社および団体、特別会員は第1種と第2種に分かれ、第2種の会員は会費納入の義務を負わない。
名誉会員	本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本会の総会において推挙された者

■総会および定期研究会

重要な議決事項は総会で審議されます。総会は年1回開かれることになっています。定期研究会は、隔月で開催されています。

■役員その他

本研究グループでは代表、幹事長、幹事および会計幹事の役員をおき、会の運営にあたっています。現在の役員は次の通りです。

代表	舘石 和雄	名古屋大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻
幹事長	松村 寿男	瀧上工業(株) 技術開発グループ
事務局担当	櫻井 勇太	瀧上工業(株) 技術開発グループ
会計担当	川瀬 瞳	日中コンサルタント(株) 名古屋支店
会計監査	川西 直樹	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
企画担当	長瀬 雅史	日本車輛製造(株) 品質保証部 品証二課
研究会担当	渡辺 孝一	名城大学 理工学部 建設システム工学科
	川西 直樹	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
	北根 安雄	名古屋大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
	鈴木 森晶	愛知工業大学 工学部 都市環境学科 土木工学専攻
	海老澤 健正	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 都市社会工学専攻
	木下 幸治	岐阜大学 工学部 社会基盤工学科
HP担当	加藤 正実	中日本ハイウェイ・エンジニアリング(株) 技術開発部

東海構造研究グループ会則

制定 平成元年 4月1日

(名称)

第 1 条 この会は東海構造研究グループという。英文名を Study Group of Structures in Tokai とし、略称を SGST という。

(目的)

第 2 条 本会は、構造物に関する意見の交換及び調査研究を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。

- (1) 構造物に関する研究会の定期的な開催
- (2) 講演会・講習会・座談会及び懇親会の開催及び協賛
- (3) 見学会及び視察
- (4) 構造物に関する試験及び指導の受託
- (5) その他、本会の目的達成に必要な事業

(会員の種別及び資格)

第 4 条 本会の会員の種別及び資格は次の通りとする。

- (1) 正会員
本会の各種事業の主体となって活動する次の各号の 1 に該当する者
 - (ア) 構造物に関する業務に従事している者
 - (イ) 構造物に関する学識経験者
 - (ウ) 前号に準ずる者
- (2) 賛助会員
正会員の研究活動に参加し又は支援する正会員の経験者及びこれに準ずる者。
- (3) 特別会員
本会の目的及び事業に賛同し、本会を援助する会社及び団体。
特別会員は第 1 種と第 2 種に分け、第 2 種の会員は会費納入の義務を負わない。
- (4) 名誉会員
本会及び構造物に関する功績が特に顕著であって、総会において推挙された者。

(会員の入退会)

第 5 条 会員（名誉会員を除く）の入会並びに退会は、会員規定の定めにより手続きを行い、代表の承認を得なければならない。

(会費)

第 6 条 会員は、会費及び臨時経費を負担する。会費及び臨時経費の額は、会員規定で定める。

(役員)

第 7 条 本会には、次の役員を置く。

- (1) 代表 1 名
- (2) 幹事長 1 名
- (3) 幹事 若干名
- (4) 会計監査 1 名

(役員任期及び報酬)

第 8 条 役員任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

第 9 条 本会の役員は、名誉職とする。

(役員を選出)

第10条 役員は、総会において会員の互選によって選出されるものとする。

(役員職務)

第11条 役員は、以下の職務を行う。

- (1) 代表は、本会の会務を総理する。
- (2) 幹事長は、代表を補佐し、代表に事故あるときは、これを代理する。
- (3) 幹事長及び幹事は、会計を含む会務を処理する。
- (4) 会計監事は、会計を監査し、総会で監査内容を報告する。

(会計年度)

第12条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(定期研究会及び総会)

第13条 全会員のための定期研究会は原則として、隔月に開催するものとする。総会は、年度の初めての定期研究会をもってあてる。ただし、代表が必要とするときは、臨時総会を開催することができる。

(総会の審議事項及び決議)

第14条 総会は、本会の予算、決算、その他重要事項を審議し、出席会員の過半数で決定する。可否決議のときは、議長が決定する。

(委員会の設置)

第15条 第3条の事項を行うため、委員会をおくことができる。委員会の設置及び廃止は総会で決定する。年度をこえて委員会を継続するときは、総会で承認を得なければならない。委員会の活動は別に定める委員会規定による。

第16条 委員会の委員長は、代表の推薦によって総会で決定する。

第17条 委員会の研究及び事業の成果は、総会又は定期研究会に報告する。

(会則の変更)

第18条 本会則の変更は、総会の決議による。

付則 本会則は、平成元年4月1日から施行する。

幹事内規

平成 元年 4月 制定

平成 21年 4月 改正

平成 23年 4月 改正

1. 幹事の構成

幹事の構成は下記を基本とする。

- ・ 代表（1名）：総会での議事進行を行う。
- ・ 幹事長（1名）：SGSTの総括・運営、幹事会での議事進行を行う。
- ・ 事務担当（1～2名）：幹事長を補佐し、SGSTの事務全般を行う。
- ・ 会計担当（1名）：SGSTの会計管理を行う。
- ・ 企画担当（1名）：SGSTの懇親会・見学会の設定を行う。
- ・ HP担当（1名）：SGSTのHPについて更新・改訂を行う。
- ・ 研究会担当（6名）：定期研究会の講演者選出を行う。ただし、研究会担当のうち1名は会計監査担当を兼務する。
(研究会担当の任期は2年とする。ただし、再任を防げない。)

2. 幹事の役割分担

- ①代表
 - 1) 毎年4月に行われる総会における議事進行
 - 2) 毎年4月に作成する活動報告集（前年度分）の挨拶文を作成
- ②幹事長
 - 1) SGSTの総括と運営
 - 2) 隔月で開催される幹事会における議事進行
- ③事務担当
 - 1) SGST会員名簿の管理
 - ・ 入会、脱会届、変更届を活動報告集とともに送付
 - ・ 会員の変更を名簿に反映
 - 2) 隔月で開催される幹事会および定期研究会の準備
 - ・ 会場の予約
 - ・ 幹事会および定期研究会の案内作成
 - ・ 幹事会の議事作成
 - ・ 幹事会および定期研究会の参加者への配布する飲み物を準備
 - ・ 幹事会および定期研究会の議事録作成
 - 3) 定期研究会のCPD申請
 - ・ 講演概要を土木学会、土木施工管理技士会等の継続教育認定の申請
 - 4) 活動報告書のまとめ
 - ・ 活動報告書の作成、印刷
 - ・ 活動報告書の発送
 - 5) 日常業務
 - ・ SGST宛てのメール処理
 - 6) 旧幹事と新幹事の担当作業の引継
 - ・ 総会時の役割分担処理
 - 7) 連絡事項
 - ・ 入退会情報の管理

- ④会計担当
 - 1) 年会費の請求
 - 2) SGST 会費の管理
 - 3) 会議費、懇親会費等の会計
 - 4) 講演費および旅費の領収書を作成、発行
 - 5) 年度収支の会計報告書を作成
 - 6) HP 請求書の処理
- ⑤企画担当
 - 1) 懇親会の準備
 - ・懇親会会場の設定
 - ・会場までの送迎手配
 - ・懇親会参加者の事前確認
 - ・懇親会当日参加者の確認
 - ・懇親会会費の収集
 - ・領収書の作成、発行
 - 2) 見学会の準備
 - ・見学会の企画
 - ・見学会の案内
- ⑥HP 担当
 - 1) HP の更新・改定
 - ・幹事の更新
 - ・定期研究会の開催案内の更新
 - ・SGST 活動報告集の掲載
 - ・研究委員会の紹介を更新
 - ・研究委員会報告書のパスワードを毎年更新
 - ・研究委員会の活動報告書を掲載
- ⑦研究会担当
 - 1) 定期研究会の準備
 - ・講師の決定
 - ・講師への講演依頼
 - ・講演題目、講演概要を講師に作成依頼
 - ・交通費および宿泊費の有無を講師に確認
 - 2) 定期研究会の司会進行

SGST 講演費・旅費・宿泊費の改訂

2006年4月

2009年10月

表-1 SGST 講演費の規定

SGST主催：年6回

定期研究会の場合

支給区分	現行	改定
SGST会員	20,000	10,000
SGST非会員	40,000	20,000

SGST：共催講演会の場合

(SGST ツポゾム・周年記念等を除く)

支給区分	現行	改定
SGST会員	10,000	10,000
SGST非会員	20,000	20,000

表-2 SGST 旅費の規定

※旅費の申請がある場合は次の旅費を支給する。

支給区分	現行	改定
東京	25,000	現行通り
大阪	15,000	//
福山	30,000	//
金沢	20,000	//
長野	15,000	//

※※上記以外の地域は、担当幹事で提案し、代表もしくは幹事長の承認を得る。

表-3 SGST 宿泊費の規定

支給区分	現行	改定
名古屋市内	10,000	現行通り

表-4 SGST 定期研究会後の懇親費用負担の規定

支給区分	現行	改定
「お礼会*」（懇親会以外）	規定無し	2万円程度
「懇親会**」（4,8,12月）	規定無し	3万円程度

*講演者+依頼者（合計4名を想定）で20,000円の試算。講演者は無料。

依頼者の負担を補助により軽減。担当幹事にて良識の範囲内で判断。

**「会費徴収」の旨を連絡し、当日会場で4000円程度/人（会場に依存）の徴収を行う。店の予約時に1名あたりの金額を聞き調整する。

講演者は無料、依頼者の負担軽減および会員の費用補助として、SGSTとして3万円程度を目安に補助。代表・幹事において良識の範囲内で判断。

研究委員会内規

平成10年4月制定

平成17年4月改正

1. 研究委員会の目的

研究委員会は、構造工学に関する調査研究を行うとともに、学術の進歩に寄与することを目的とする。

2. 研究委員会の活動

研究委員会は、目的達成のため下記の活動を行う。

- 1) 研究委員会の目的に相応しい、調査・研究
- 2) 東海構造研究グループ（以下、SGSTと呼ぶ）内の他研究委員会との相互連絡
- 3) SGSTによる行事に関する企画・協力
- 4) 関連する他学協会の研究委員会および諸官公署等との連絡・調整
- 5) SGST定期研究会における成果報告
- 6) その他

3. 研究委員会の構成

研究委員会は、委員長1名、幹事1名、および委員若干名で構成する。委員はSGST会員の中で公募する。

4. 研究委員会の活動期間

研究委員会の活動期間は原則として、2年間とする。

5. 研究費

研究委員会の研究費は原則として、最大100万円/2年とする。研究費の用途としては、会議費、調査費、研究旅費および謝金、等とする。会議費は、1回当たり2,000円/人を限度として使用できる。研究費の残金は、SGSTに返金するものとする。研究会の会計報告書は、幹事会を経て次年度の総会に提出し、承認を得る。

6. 運営

研究委員会の開催は、定期的に行う。ただし、委員長および委員の要望により適宜開催することができる。

7. 研究奨励

SGST活動の活性化を諮るために研究奨励の公募を行うものとする。

1) 対象

- ・ 若手研究者への研究奨励
- ・ 調査研究

2) 研究奨励金給付条件

- ①定期研究会等におけるSGSTでの成果報告
- ②研究成果報告書の作成
- ③学会発表、論文投稿を推奨（SGSTの助成を明記する）
- ④会計報告

3) 研究奨励費

研究奨励費は原則として、最大40万円とする。研究奨励費の用途としては、会議費、調査費、研究旅費および成果品報告書の作成費とする。

8. 内規の変更

内規は、SGST幹事会で発議し総会で諮った後、代表の承認のもとに改正することができる。

平成27年度 東海構造研究グループ 会員名簿

H28. 3.31現在

<特別会員>

(会員数:17社)

所属	代表者名	備考
JIPテクノサイエンス(株)	園部 巖	
(株)サンワ構造システム	陳 旺争	
(株)コベルコ科研	谷川 学	
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)	加藤 正実	HP担当
日中コンサルタント(株)	川瀬 瞳	会計担当
パルステック工業(株)	瀧上 静也	
(株)篠田製作所	佐藤 稔	
(株)東京鉄骨橋梁	入部 孝夫	
瀧上工業(株)	織田 博孝	常任理事
中日本建設コンサルタント(株)	入山 祐一	
日本橋梁(株)	小西 日出幸	
日本車輛製造(株)	山田 忠信	常任理事
名古屋高速道路公社	石塚 雅浩	
(株)東京測器研究所	平岩 健一	
ヤマダインフラテクノス(株)	山田 翔平	
(株)興栄コンサルタント	畑佐 陽祐	
(株)特殊高所技術	和田 聖司	

<正会員>

(会員数:84名)

氏名	所属	備考
青木 徹彦	愛知工業大学	常任理事
青嵐 安弘	中部復建(株)	
安藤 弘章	日本工営(株)	
安藤 浩吉	【自宅】	常任理事
石井 修	ショーボンド建設(株)	
泉野 誠司	玉野総合コンサルタント(株)	
伊藤 義人	名古屋大学	常任理事
岩本 政巳	名古屋工業大学	
宇佐美 勉	名城大学	常任理事
内山 真人	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	
海老澤 健正	名古屋工業大学	研究会担当
大内 隆志	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	
大富 崇	北名古屋市	
大橋 清	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	
大平 浩義	日本ペイント株式会社	
岡本 利朗	(一社)橋梁調査会 中部支部	
小塩 達也	名城大学	
小畑 誠	名古屋工業大学	常任理事
葛西 昭	熊本大学	
梶川 康男	金沢大学	常任理事
嘉津 敏明	川田テクノシステム(株)	
加藤 久喜	(株)建設技術研究所	
鎌田 裕一	(一社)橋梁調査会	
川西 直樹	豊田工業高等専門学校	研究会担当, 会計監査
北根 安雄	名古屋大学	研究会担当
木下 幸治	岐阜大学	研究会担当
葛 漢彬	名城大学	
久保 全弘	名城大学	常任理事
黒崎 和保	新日鐵住金(株)	
小枝 芳樹	川田工業(株)	
後藤 芳顯	名古屋工業大学	常任理事
近藤 明雅	名城大学	
坂井田 実	大日コンサルタント(株)	
佐光 浩継	(株)維持管理工房	
佐藤 文彦	(株)片平エンジニアリング	

平成27年度 東海構造研究グループ 会員名簿

H28. 3.31現在

<正会員>

氏名	所属	備考
柴田 正晴	大日コンサルタント(株)	
清水 茂	信州大学	
清水 隆史	(株)建設技術研究所	
清水 優	名古屋大学	
杉山 哲也	(株)日本ピーエス	
杉山 宜央	杉山設計事務所	
鈴木 五月	名古屋高速道路公社	
鈴木 森晶	愛知工業大学	研究会担当
鷺見 英吾	八千代エンジニアリング(株)	
高橋 幹雄	(一社)橋梁調査会	
高橋 洋一	国土交通省 中部地方整備局	
竹内 祥一	福美建設(株)	
館石 和雄	名古屋大学	代表
忠 和男	豊田工業高等専門学校	
土橋 勝	横河ブリッジ(株)	
永田 和寿	名古屋工業大学	
永富 大亮	八千代エンジニアリング(株)	
中野 錦也	愛知県	
中本 丈視	中部復建(株)	
奈良 敬	大阪大学	
長谷川 隆一	セントラルコンサルタント(株)	
長谷部 宣男	長谷部応用力学研究所	常任理事
原田 和樹	玉野総合コンサルタント(株)	
原田 敏行	復建エンジニアリング	
判治 剛	名古屋大学	
平澤 征夫	中部大学	
廣畑 幹人	名古屋大学	
深田 幸史	金沢大学	
福本 嘔士	名古屋大学、大阪大学	名誉会員
古市 亨	(株)維持管理工房	
前川 幸次	金沢大学	
牧野 敏行	玉野総合コンサルタント(株)	
榎谷 浩	金沢大学	
萬谷 正樹	川田工業(株)	
水澤 富作	大同大学	
水谷 慎吾	JFEエンジニアリング(株)	
水野 英二	中部大学	常任理事
水野 剛規	岐阜工業高等専門学校	
虫賀 恭一	中部大学	
村上 茂之	岐阜大学	
村瀬 佐太美		
村瀬 敏弘	愛知県	
森野 真之	株式会社 長大	
八木 規仁	ショーボンド建設(株)	
山瀬 不三男	シビルテック(株)	
山本 篤博	パシフィックコンサルタンツ(株)	
渡辺 孝一	名城大学	研究会担当
渡邊 尚彦	岐阜工業高等専門学校	

<賛助会員>

(会員数:1名)

氏名	所属	備考
由井 洋三	由井技術士事務所	

平成27年度 SGST会計報告

平成28年3月31日

平成27年4月1日～平成28年3月31日現在

【収入】

会費収入	
・特別会員費	510,000円
・個人会員費	102,000円
・見学会費	0円
・懇親会費	339,500円
利息	491円
<hr/>	
合 計	951,991円

【支出】

研究会講演謝礼および交通費	212,000円
ホームページ使用費	114,480円
C P D認定料	10,000円
見学会費	134,250円
懇親会費	403,119円
印刷費	31,968円
研究小委員会補助費	105,247円
雑費(飲料代、通信費および振込手数料)	18,156円
<hr/>	
合計	1,029,220円

【次年度繰越金】

昨年度(H26年度)繰越金	2,798,959円
収入合計(H27年度)	951,991円
支出合計(H27年度)	(一) 1,029,220円
<hr/>	
次年度(H28年度)繰越金	2,721,730円

以上の報告に相違ありません。

会計監査

川西 直樹



平成27年度 LRFR会計報告

平成28年3月31日

平成27年4月1日～平成28年3月31日現在

【収入】

会費収入 ・懇親会費	44,000円
合計	44,000円

【支出】

懇親会費	54,000円
雑費(書籍代、交通費)	93,247円
合計	147,247円

【次年度繰越金】

昨年度(H26年度)繰越金	0円
収入合計(H27年度)	44,000円
支出合計(H27年度)	(-) 147,247円
次年度(H28年度)繰越金	-103,247円

以上の報告に相違ありません。

会計監査

川瀬 瞳



平成27年度 S G S T 最新技術・情報調査研究委員会会計報告

平成28年3月31日

平成27年4月1日～平成28年3月31日現在

【収入】

会費収入	
・個人参加費	12,000円
・懇親会費	110,000円
岐阜大学からの補助	20,000円
<hr/>	
合 計	142,000円

【支出】

研究会講演謝礼	20,000円
懇親会費	124,000円
<hr/>	
合計	144,000円

【次年度繰越金】

昨年度(H26年度)繰越金	0円
収入合計(H27年度)	142,000円
支出合計(H27年度)	(-)144,000円
<hr/>	
次年度(H28年度)繰越金	-2,000円

以上の報告に相違ありません。

会計監査

岡本 利朗

